

新燃岳 2025年8月10日噴火の火山灰構成粒子の特徴

2025年8月10日噴火で噴出された火山灰構成粒子の種類はこれまでとほぼ同様であるが、7月の噴火に比べて赤色酸化粒子の割合は増加傾向にあり、中でも発泡痕のある粒子の割合が増えている。

霧島山新燃岳では、2025年6月22日以降、断続的に火山灰を放出する活動が継続している。8月10日5時23分には、火口縁上3,000mを超える噴煙が上がり、北東方向に降灰が認められた。

観察した試料は：

- ① 宮崎地方気象台が、降灰のほぼ主軸上にある新燃岳北東約13kmの小林市堤（木場）で採取した火山灰 (942.4 g/m²)。
- ② 鹿児島県立出水高等学校の成尾英仁氏が、新燃岳北東約6kmの夷守台で採取した火山灰(215 g/m²)。

火山灰の粒径は①②とも礫 (>2 mm) を含まず粗粒砂 (1 mm) 以下である。これらの火山灰を蒸留水で水洗後、125-250 μm 及び 250-500 μm に篩い分け、キーエンス社のデジタルマイクロスコープ (VHX-8000) で観察した。

火山灰構成粒子は、斜長石や輝石などの遊離結晶片 (C)、緻密でやや透明感のある淡色粒子 (LP)、黒色や灰色を呈した不透明な岩片 (DL)、光沢を有する黒色～暗褐色ガラス片 (DG)、熱水変質を受けた粒子と考えられる白色不透明岩片 (WL)、赤色に酸化した緻密な岩片あるいは発泡痕のある粒子 (RL)、ガラス光沢を有する緻密な黒色～暗褐色岩片 (GL)、淡色～無色の発泡ガラス(WG)が含まれていた (図1)。これらの火山灰構成粒子の種類は2025年7月以降の噴出物と同様である。7月の噴火に比べて、赤色の酸化粒子(RL)の割合は増加傾向にある (図1, 図2)。その中でも赤色酸化した粒子(RL)は、7月の噴火に比べて、DGのように発泡痕のある粒子の割合が増える (図2)。また、RLの中には、部分的に赤色化した粒子が含まれるようになった (図3)。今後も新燃岳の動向に注視して火山灰構成粒子の変化を把握し続ける必要がある。

参考：

- ・[新燃岳 2025年7月2日～4日噴火の火山灰構成粒子の特徴：2025年7月7日](#)，産総研地質調査総合センター
- ・[新燃岳 2025年7月5～9日噴火の火山灰構成粒子の特徴：2025年7月11日](#)，産総研地質調査総合センター
- ・[新燃岳2025年7月2～4日噴火の火山灰構成粒子の鉱物・ガラス化学組成：2025年7月14日](#)，産総研地質調査総合センター
- ・[新燃岳 2025年7月22日に採取された火山灰の構成粒子の特徴：2025年8月1日](#)，産総研地質調査総合センター

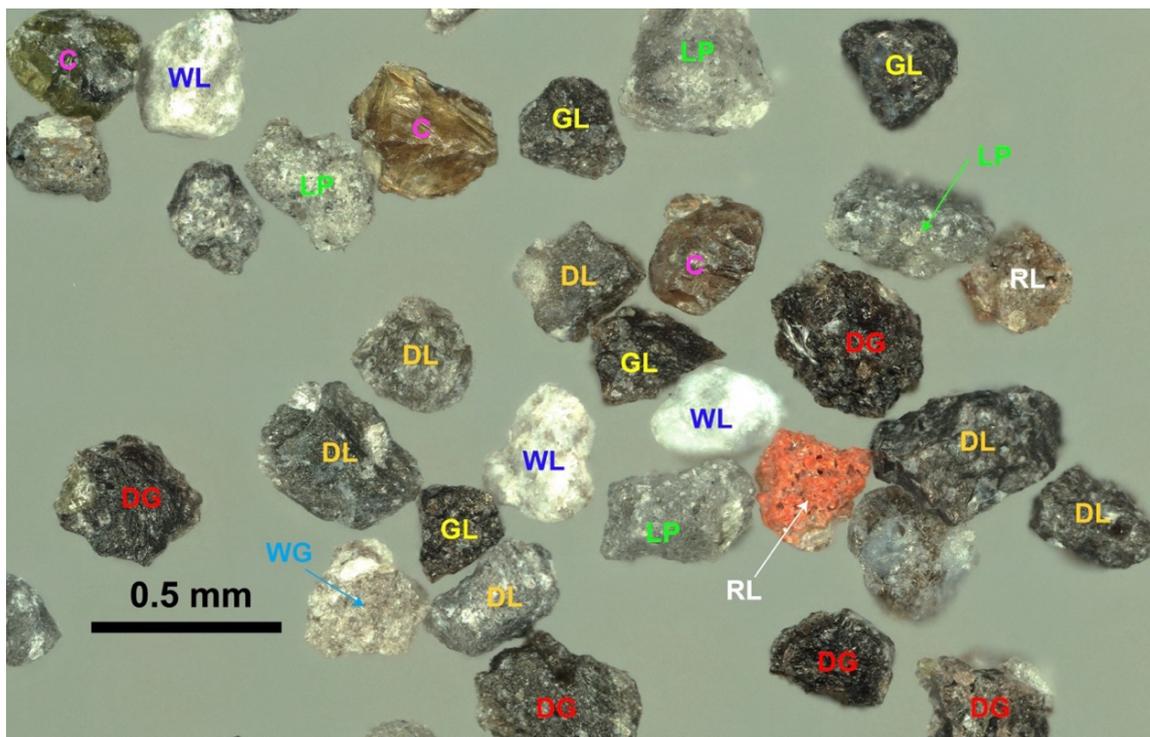


図1. 2025年8月10日5時23分噴火の火山灰の構成粒子写真 (粒径 250-500 μm). 宮崎地方气象台採取. 分類も示す (略号については本文を参照のこと).

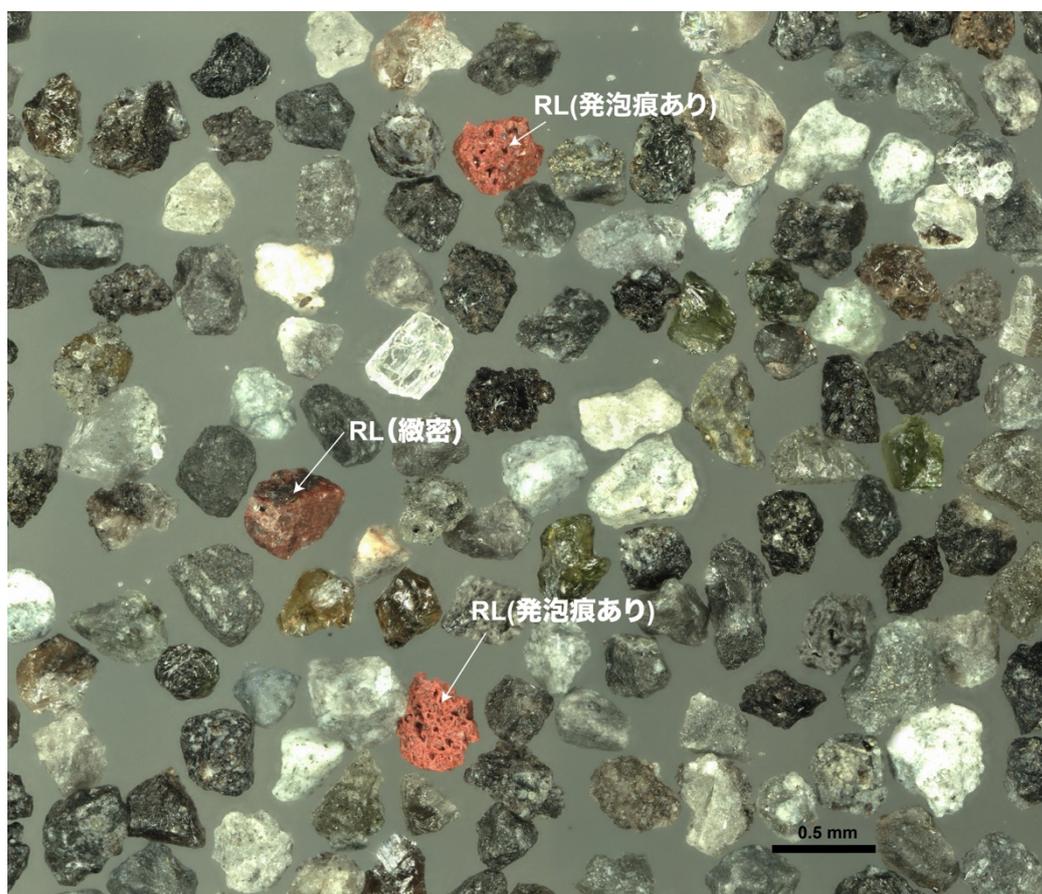


図2. 2025年8月10日5時23分噴火の火山灰中の赤色酸化粒子(粒径 125-250 μm). 成尾英仁氏採取.

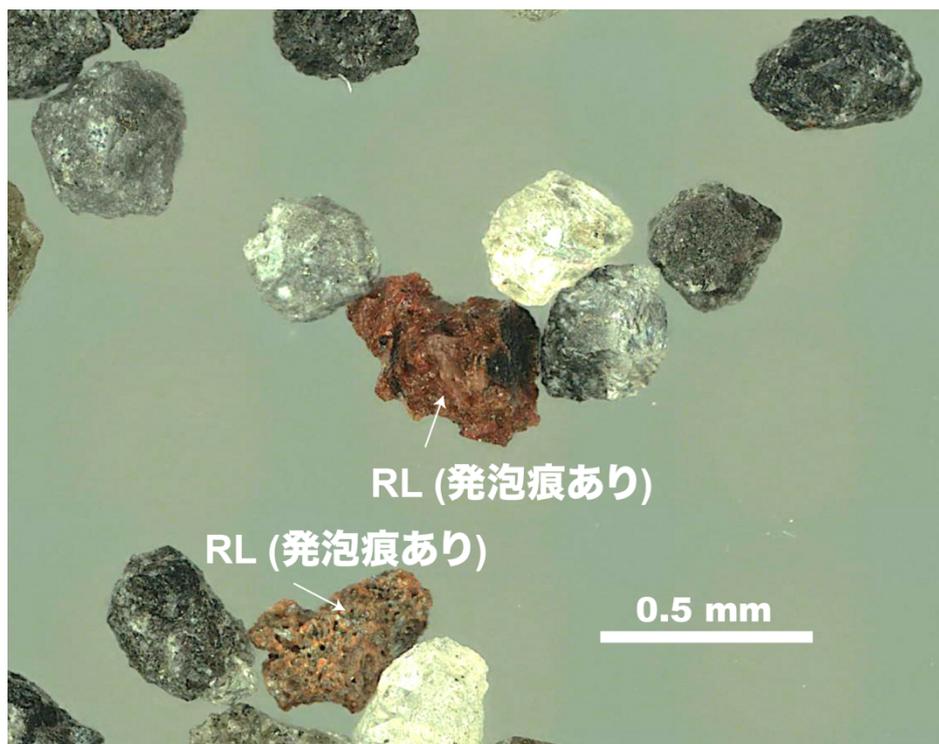


図3. 2025年8月10日5時23分の火山灰中の部分的に赤色酸化した発泡痕のある粒子(中央).
宮崎地方气象台採取.